



1

©Noriaki Yokosuka, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery

横須賀功光 Noriaki YOKOSUKA

『小夜子』

この度Akio Nagasawa Gallery Ginzaにて、横須賀功光個展「小夜子」を開催致します。

横須賀功光（1937-2003）は、大学在学中よりその才能を認められ、商業写真家として活動を開始。以降、国内はもとより海外でも一線で活躍していました。また、それと並行して写真作家としての創作活動も旺盛に行なっておりました。1963年に「モード・イン」「黒」に対して日本写真協会賞新人賞、日本写真批評家協会新人賞を受賞。60年代、70年代に「射」「垂」「檻」「壁」を発表。80年代に山口小夜子を被写体に「小夜子」「月」を発表し、講談社出版文化賞を受賞。

1989年に「光銀事件」が伊奈信男賞を受賞。90年代にはバウハウスのオスカーシュレンマーの舞踏トリアディック・バレエをカラーソラリゼーションで表現した「時間の庭」、20世紀初頭の技法プラチナプリントを用いた「エロスの部屋」、写真技法を総動員し制作された「光学異性体」を発表。また未発表作品として、独自に制作されたオブジェを捉えた「マンレイ・オマージュ」等があります。本展では、1984年資生堂で発表された「小夜子」シリーズを展覧致します。

これらは各イメージ、それぞれ1点のみ現存するヴィンテージプリントで構成しております。

この機会にぜひご高覧ください。

《開催概要》

作家名	横須賀功光
タイトル	「小夜子」（英表記：SAYOKO）
会期	2024年6月13日（木）－7月27日（土） 火曜～土曜 11:00-19:00（土曜日は13:00-14:00クローズ） 休廊日：日曜、月曜、祝日
会場	Akio Nagasawa Gallery Ginza 〒107-0062 東京都中央区銀座4-9-5 銀昭ビル6F Tel: 03-6264-3670

《作家略歴》

横須賀功光 (Noriaki YOKOSUKA)

横須賀功光は、日本大学芸術学部写真学科在学中から、資生堂のクリエイティブスタッフと共に現代的かつ斬新な広告表現で注目を浴び、卒業（1961年）と同時にフリーランスとして活動を始め、その後40年余に亘って広告写真のリーダーの一人として国際的にも活躍し、高く評価されました。

これらの広告写真群は、昭和の広告史の中で多くの不朽の作品として大きな意味を持つものです。1963年に資生堂の広告キャンペーンで日宣美奨励賞、ADC特別賞、毎日デザイン広告特別賞を同時に受賞。1964年にアートディレクター中村誠氏と共に「メイクアップ・トーキョー」を、1966年にはグラフィックデザイナー石岡瑛子氏と共に「太陽に愛されよう」など一連の広告写真を発表し、この世界に新しい時代を築きました。

さらに、1983年には日本人初のイタリアヴォーグ、フレンチヴォーグのフリーランススタッフカメラマンとなって世界に羽ばたいています。またTV-CF作品においても、1975年にサントリーウィスキー（サミーデビス jr編）TV-CFが、カンヌ映画祭CM部門グランプリを受賞。1981年にカンヌ映画祭CM部門銅賞を受賞しました。

横須賀功光は、広告写真家とは別に、写真作家として数々の創作活動を行ってきました。1963年に「モード・イン」「黒」に対して日本写真協会賞新人賞、日本写真批評家協会新人賞を受賞。60年代、70年代に「射」「亜」「檻」「壁」を発表。80年代に山口小夜子を被写体に「小夜子」「月」を発表し、講談社出版文化賞を受賞。

1989年に「光銀事件」が伊奈信男賞を受賞。90年代に世界的に評価の高いバウハウスのオスカーシュレンマーの舞踏トリアディック・バレエをカラーソラリゼーションで表現した「時間の庭」、20世紀初頭の技法プラチナプリントを用いた「エロスの部屋」、写真技法を総動員し制作された「光学異性体」を発表。また未発表作品として、独自に制作されたオブジェを捉えた「マンレイ・オマージュ」等があります。

《広報用画像》

ご希望の画像番号をお申し付けください。

画像クレジット ©Noriaki Yokosuka, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery



2.



3.



4.



5.



6.

《広報・ご取材に関するお問い合わせ》

AKIO NAGASAWA Gallery | Publishing (中田：) nakata@akionagasawa.com